

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】令和3年10月7日(2021.10.7)

【公開番号】特開2020-136752(P2020-136752A)

【公開日】令和2年8月31日(2020.8.31)

【年通号数】公開・登録公報2020-035

【出願番号】特願2019-24336(P2019-24336)

【国際特許分類】

H 04 R 3/04 (2006.01)

H 04 S 1/00 (2006.01)

G 10 K 15/00 (2006.01)

【F I】

H 04 R 3/04

H 04 S 1/00 200

G 10 K 15/00 L

【手続補正書】

【提出日】令和3年8月25日(2021.8.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

収音信号の周波数特性に対する包絡線を算出する包絡線算出部と、
前記包絡線の周波数データを尺度変換及びデータ補間することで、尺度変換データを生成する尺度変換部と、

前記尺度変換データを複数の周波数帯域に分けて、前記周波数帯域毎の特徴値を求め、
前記特徴値に基づいて、正規化係数を算出する正規化係数算出部と、

前記正規化係数を用いて、時間領域の収音信号を正規化する正規化部と、を備えた処理装置。

【請求項2】

前記正規化された収音信号を周波数領域に変換して、正規化周波数特性を算出する変換部と、

前記正規化周波数特性のパワー値又は振幅値に対して、ディップ補正を行うディップ補正部と、

前記ディップ補正された正規化周波数特性を用いて、フィルタを生成するフィルタ生成部と、を備えた請求項1に記載の処理装置。

【請求項3】

前記ディップ補正部は、周波数帯域毎に異なる閾値を用いて、ディップを補正している請求項2に記載の処理装置。

【請求項4】

前記正規化係数算出部は、前記周波数帯域毎に、複数の特徴値を求め、

前記複数の特徴値を重み付け加算することで、前記正規化係数を算出する請求項1～3のいずれか1項に記載の処理装置。

【請求項5】

収音信号の周波数特性に対する包絡線を算出するステップと、

前記包絡線の周波数データを尺度変換及びデータ補間することで、尺度変換データを生

成するステップと、

前記尺度変換データを複数の周波数帯域に分けて、前記周波数帯域毎の特徴値を求め、前記特徴値に基づいて、正規化係数を算出するステップと、

前記正規化係数を用いて、時間領域の収音信号を正規化するステップと、を含む処理方法。

【請求項 6】

前記正規化された収音信号を周波数領域に変換して、正規化周波数特性を算出するステップと、

前記正規化周波数特性に対して、ディップ補間を行うステップと、

前記ディップ補間された正規化周波数特性を用いて、フィルタを生成するステップと、を含む請求項 5 に記載の処理方法。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の処理方法で生成された前記フィルタを用いて、再生信号に頭外定位処理を行うステップを含む再生方法。

【請求項 8】

コンピュータに対して処理方法を実行させるためのプログラムであって、

前記処理方法は、

収音信号の周波数特性に対する包絡線を算出するステップと、

前記包絡線の周波数データを尺度変換及びデータ補間することで、尺度変換データを生成するステップと、

前記尺度変換データを複数の周波数帯域に分けて、前記周波数帯域毎の特徴値を求め、前記特徴値に基づいて、正規化係数を算出するステップと、

前記正規化係数を用いて、時間領域の収音信号を正規化するステップと、を含む、プログラム。